

「大衆とともに」実践貫く

公明、各地で新春街頭演説会

日本再生へ道筋確かに

山口代表、参院選予定候補ら訴え

2023年を迎え、公明党は21日から各地で新春街頭演説会を開催し、山口那津男代表を先頭に夏の参院選予定候補らが勢いよく出発した。山口代表は、党創立者から「大衆とともに」の立憲精神が示されて今年で60年を迎えることに触れ、立憲精神を体現し「小さな声を聴く力」を養い、ネットワークの力を十分に発揮する機能を実践の中で生かす」と訴えた。■関連記事2、7面

【東京】山口代表は21日午前、新宿駅西口で高木勝介選挙対策委員長(党都本部代表)、竹谷とし子参院議員(参院選予定候補)らと共に行き、街頭演説し、「今年こそコロナを乗り越え、日本再生への確かな道を開く」と力説した。その上で、コロナ対策では、オミクロン株の拡大に備え、病床と医療従事者の確保、3回目ワクチン接種の前進、無料検査を着実に進めると強調。持続可能な社会に向けては、子育て・教育支援を一層強化するため、党として「子育て応援100プラン」を策定し「子ども基本法」の制定で法的な基礎を整えて力強く推進する」と訴えた。外交・安全保障を巡っては、大國間で緊張や対立が深まる中、協調を生み出す必要性を指摘。「アジアには、中国や米国、日本などが加わって対話を行う常設機構がない。日本が主導してつくる努力が必要ではないか」との考えを示した。一方、政策立案に向けた党の取り組みでは、1、2月に子育て、高齢者、中小企業支援などに関するアンケート運動を推進していくことに触れ、「必ずこの調査で人々の求める傾向に基づき政策を実現したい」と

力説。参院選に向けては、選挙区7人の当選、比例区7人、800万票獲得をめざして闘い、断じて勝つと訴えた。竹谷氏は、コロナ禍で苦しむ中小企業の支援に奔走したことを訴え、「国民の役に立つ政策実現のために働く」と力説した。■2面に続く



東京

コロナ克服、日本再生の道を切り開くと訴える山口代表(中央)と高木(左端)、竹谷(右端)両氏ら。21日、東京・新宿駅西口